

# どんな災害、どんな不漁にも負けない漁村を作るために

～平成 15 年度 全国漁協交流集会 報告～



7月11日(木)岩手県田老町の「グリーンピア田老」で、「ぎょさい」の重要性を改めて理解していただくため、平成15年度全国漁協交流集会を開催しました。会場となった田老町は、同県陸中海岸北部に位置し、近くには北山崎や浄土ヶ浜など景勝地を控えています。この自然豊かな会場に、全国12道県から漁協役職員など約60名の参加をいただきました。

集会は本会常務の中森による基調報告のあと、地元田老町漁協の畠山武男組合長（漁業連理事、岩手県漁業共済組合組合長理事）が『漁業共済継続加入と組合員福祉共済会の役割』と題して講演を行い、明治と昭和の二度の大津波被害を教訓に自然災害の備えとして「ぎょさい」への取り組みに力を入れてきた点を紹介しました。また、近年のワカメ病虫害や単価安等による被害についても触れ、「どんな災害、どんな不漁にも負けない漁村を作るために「ぎょさい」への加入を」と力強く呼びかけました。

続いて、岩手県水産局長より『岩手県のつくり育てる漁業』と題して講演いただきました。岩手県の漁業生産はアキサケ・ワカメ・コンブ・カキ・アワビ等の「つくり育てる漁業」が主幹になっているが、自然環境等の変化により漁獲金額はどうしても安定しないことから、「つくり育てる漁業」をすすめるうえにおいても「ぎょさい」への加入が不可欠であり、また、2年連続で不慮の事故に見舞われたワカメ養殖業について、「ワカ

メ養殖業は「ぎょさい」にほぼ 100%加入をしていたので、漁業者は来漁期への生産意欲が維持できていた。」とし、今後も県の立場で「ぎょさい」加入を推進していく旨を表明し、講演を締めくくられました。